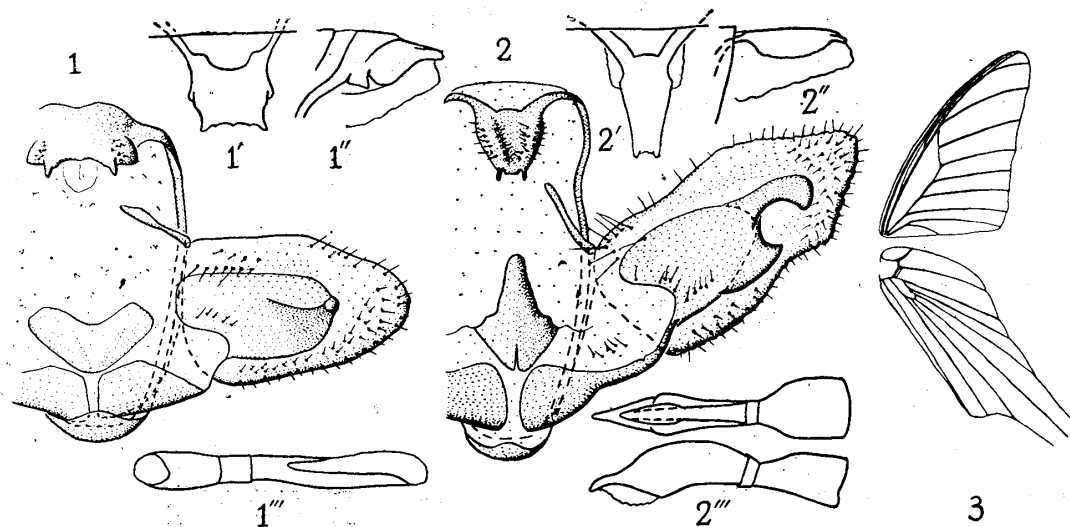
GENUS *LAMPROPTERA* GRAY（解說）

秦　凱彦 (Yoshihiko Hata)

本屬はアッサム・ビルマ・印度支那・マレー・マレー諸島・東インド諸島・フイリッピン諸島等に廣く分布する．アゲハチョウ科に屬し，*Leptocircus* という名で知られているが，Hemming(1934) に依ると上記の屬名が正しい．本屬には互によく似た2種の蝶 *meges* と *curius* が含まれるが，共に前翅開張 30〜40 mm 位で小さい．併し尾狀突起は體長の數倍に及んでいる．

交尾器並に翅脉は圖示したが，交尾器では (1) scaphium が扁平で特異な形をなす．(2) vinculum はきわめて細い．(3) valva は vinculum の腹側に偏つて接續している．(4) costa がとても細長い．(5) 全體として骨化の傾向が弱い．其他 superuncus を缺く事や harpe の形も補助的な特徵である．翅脉では後翅中室が實に小さい事が目立つている．

1：*Lamproptera meges* の ♂genitalia.
　1′：scaphium の背面圖． 1″：同側面圖． 1‴：aedoegus.
2：*Lamproptera curius* の ♂genitalia.
　2′：scaphium の背面圖． 2″：同側面圖． 2‴：aedoeagus（上：背面，下：側面）.
3：*Lamproptera meges* の翅脉.

meges は *Illigra burmanica* (Combretaceae シクンシ科) の葉の裏面に產卵するとの事である．生態については未だ詳しく調べていないので，何れ機會を見て紹介する．Seitz によると好んで水邊に集るらしく，"とんでもない水飲み家" とあり，又しばしば花を訪れトンボに似た飛び方をして烈しく翅を振動させながら空中の一隅に止ることもあるらし

い.

Lamproptera Gray, in Griffith's Cuvier, An. Kingd. 15 (Ins.) pl. 102, fig. 4, 1832.
〔Type : *Papilio curius* Fab., 1787〕
=*Leptocircus* Swainson, Zool. Illust. (2) 3 pl. 106, 1833.
=*Lamprosura* Boisduval (Roret's Suite à Buffon) Lépid. 1 : 380, 1836.

(1) *meges* Zinken-Sommer, 1831, Nov. Act. Acad. Nat. Cur. XV, p. 161. pl. 15, fig. 8.

ビルマ・印度支那・マレー・マレー諸島・フィリッピン諸島・東インド諸島に分布する．地色は一様に黑色，前翅に三角形の透明部を有し，又前後翅を通じて尾狀突起に至る淡綠色の縱帶がある．本種には次の5亞種が區別されている．

(a) *virescen* : ハイナン・トンキン・ビルマ・シヤン・アンナン・シャム・マラッカ.
(b) *niasicus* : ニアス.
(c) *decius* : パラバク・パラワン・フィリッピン諸島.
(d) *ennius* : セレベス.
(e) *meges* : ボルネオ・スマトラ・ジャワ.

(2) *curius* Fabricius, 1787, Mant. Ins. ii, p. 9.

分布は前種より西方に偏り，印度・アッサム・南東支那・ジャワ・パラワンに產す．前種に比しやゝ小形 (30 mm內外) で，前記の縱帶は細くて白色で前翅に於てやゝ透明である．又雄後翅に白色發香鱗がある．

(a) *walkeri* : 南東支那・トンキン・ハイナン.
(b) *libelluloides* : ニアス.
(c) *curius* : アッサム・パラワン・ジャワ.

會 員 近 況 (敬稱略)

塚本珪一：京都農專を今春卒業．平安高校教授に就任．近頃は專らセンチコガネに熱心.
緒方正美：京大醫學部病理教室に在籍．セセリチョウ雄交尾器の研究に沒頭.
岡垣　弘：本年6月より京大醫學部産婦人科に入局と決定．シロチョウ雄交尾器に專念.
秦　凱彥：海外人との文通や交換を行ひ．各地の代表種を系統的に蒐集せんと努力中.
鳥居正名：2，3年來昆虫とは全く緣が切れ，大阪に勤務．折あらば復歸したき由.
石田誠治：京都農專を今春卒業．ヒカゲチョウ雄交尾器の研究に着手.
田畑勝四郎：タテハチョウの雄交尾器を研究．近頃健康を害して自宅で靜養.
鈴木健弘：今春信州大學文理學部に入學.
林　久男：京大農學部農藝化學を今春卒業し大阪某工業會社に入社.
磐瀨太郎：靜養中．生活史研究や同好者との文通懇談を好む．最近アサヒグラフに登場.
野平安藝雄：越佐昆虫同好會の發展に努力．新設の新潟の博物館の昆虫部門を擔當.